

適応外使用医薬品の使用申請書

責任者 麻酔科 紺崎 友晴

薬剤	デクスメデトミジン静注液200μg/50mLシリンジ	規格	200μg 50mL	<input type="checkbox"/> 院内調剤が必要									
対象	術後も人工呼吸を必要とする全身麻酔中の患者 検査時に安静が保てない患者	<input type="checkbox"/> 特定の患者のみ	ID	氏名									
<p>申請理由</p> <p>近年、人工呼吸中には浅い鎮静をすることが求められている。PADISガイドラインは条件付き推奨、低い質の推奨ではあるが深い鎮静より浅い鎮静を提案している。さらにベンゾジアゼピン系よりデクスメデトミジンを支持する条件付き推奨をしている。</p> <p>全身麻酔で手術を行い、術後も人工呼吸を継続することがある。しかしデクスメデトミジンは血中濃度を安定させるためには初期負荷投与が必要とされるが、初期負荷投与で一過性の血圧上昇があらわれることがあり、初期負荷減速を考慮する必要がある。日本麻酔科学会の医薬品ガイドラインでは初期負荷投与は通常行わないと記載している。日本呼吸療法医学会の人工呼吸中の鎮静ガイドラインにも初期負荷を行わずに、あるいは1時間程度かけてゆっくり行くと記載されている。</p> <p>術後人工呼吸を必要とする全身麻酔患者に対して術後から初期負荷減速または実施せずにデクスメデトミジンを使用すると、全身麻酔終了時に鎮静が浅くなってしまう。手術室から病棟への移動時に鎮静が浅くなると危険なため、手術中からデクスメデトミジンの使用許可を申請する。</p> <p>デクスメデトミジンは全身薬の補助薬としても使用でき、麻酔量の軽減、循環動態の安定、覚醒時の振戦抑制、せん妄の防止などの利点もある。</p> <p>精神疾患を有する患者の検査で安静が保てない場合においても呼吸抑制が軽微で安全であること、他の鎮静剤のように痙攣脳波を抑制しないことから脳波測定の鎮静にも適している。</p>													
<p>問題点と対策</p> <p>速やかに血中濃度を上げようとすると、血圧上昇することがある。また迷走神経の緊張が亢進しているときに急速静注をすると重篤な徐脈や洞停止が現れることがある。初期負荷する際には心電図と観血的動脈圧測定を行い、デクスメデトミジンの使用になれた医師のみが常時監視して行う。</p> <p>冠攣縮を誘発する可能性があるため、冠攣縮性狭心症を有する患者には行わない。冠攣縮の報告はカテーテルアブレーション時に多い。カテーテルアブレーションを行う場合は使用しない。</p>													
<p>根拠となる文献</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">PADIS Guidelines</td> <td style="width: 30%; padding: 5px;">Society of Clitcal Care Medicine</td> <td style="width: 20%; padding: 5px;">2018</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">麻酔薬および麻酔関連薬使用ガイドライン 第3版4訂</td> <td style="padding: 5px;">日本麻酔科学会</td> <td style="padding: 5px;">2019</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">人工呼吸中の鎮静ガイドライン</td> <td style="padding: 5px;">日本呼吸療法医学会</td> <td style="padding: 5px;">2007</td> </tr> </table>					PADIS Guidelines	Society of Clitcal Care Medicine	2018	麻酔薬および麻酔関連薬使用ガイドライン 第3版4訂	日本麻酔科学会	2019	人工呼吸中の鎮静ガイドライン	日本呼吸療法医学会	2007
PADIS Guidelines	Society of Clitcal Care Medicine	2018											
麻酔薬および麻酔関連薬使用ガイドライン 第3版4訂	日本麻酔科学会	2019											
人工呼吸中の鎮静ガイドライン	日本呼吸療法医学会	2007											